



---

第 4 2 期 株 主 通 信

---

平成22年5月1日～平成23年4月30日

---

Financial Report

まごころを、つむぐ。  
しあわせへと、つなぐ。

アイングループ

504店舗

全国に広がるネットワーク



ごあいさつ



東日本大震災により被災された皆様に謹んでお見舞い申し上げます。被災地の皆様のご健康と一日も早い復興を心より祈念いたします。

株主の皆様におかれましては、平素より当社に温かいご支援を賜り厚く御礼申し上げます。さて、第42期（平成22年5月1日から平成23年4月30日まで）の決算が終了いたしましたので、ここに事業の概況につきましてご報告申し上げます。

わが国の経済は企業収益の改善を背景として持ち直しに転じたものの、東日本大震災の影響及び電力供給の制約による景気回復の鈍化が懸念されています。このような環境下、当社は新規出店及びM&Aを活用し、事業を積極的に拡大するとともに、グループ会社の業務集中及びスケールメリットの活用等により収益力の強化に努めてまいりました。

今後も一層の企業価値向上に取り組む所存でございますので株主の皆様におかれましては、何卒ご指導とご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

代表取締役社長 **大谷喜一**

Q 今期の業績はいかがでしたか。

**医** 薬事業におきましては、平成22年4月の薬価及び調剤報酬改定の影響により、既存店売上高は前年に比して減少傾向にあるものの、グループ全体でM&Aを含み53店舗の調剤薬局を出店し、売上高は前期比2.5%の増加となりました。

物販事業は、昨年新型インフルエンザ関連商材の売上増を補うことが出来ず、既存店の多くは前年を下回る結果となったものの、「アインズ&トルペ」5店舗、「トルペ」1店舗の計6店舗を出店した結果、売上高は前期比8.8%の増加となりました。

今期は、新規出店の他、調剤薬局事業会社6社33店舗のM&Aにて更なる拡大を進める一方で、平成23年4月にはグループ会社の株式会社メディカルハートランドを吸収合併するなど、昨年に引き続き、間接コストの圧縮と機動的な組織体制の整備を進めました。

以上により、当社グループの業績は売上高1,293億8千7百万円（前期比3.1%増）、経常利益は82億1千万円（同29.0%増）、当期純利益は39億1千6百万円（同25.1%増）と4期連続で過去最高を更新し、全国に500店舗展開を達成しました。

Q 医薬事業の展開についてどのようにお考えですか。

**昨** 年1年間で医薬分業率は2.6ポイント伸長し、調剤薬局市場は順調に拡大しています。当社グループではこれまでと同様、患者さまの利便性に優れた駅前薬局（医療機関の近隣に立地する保険調剤薬局）を中心に、積極的な出店とM&Aにより、事業規模及び出店エリアの拡大を継続いたします。更に今後は、より積極的な出店戦略として、開発型の営業を行い、大型メディカルモールの開発などを含めた出店を進めていきます。

また、調剤薬局の各業務のオートメーション化を行うことで、正確性、安全性を徹底管理し、より安心して安全にお薬を服用していただきたいと考えています。今期は「自動錠剤ピッキング機（※）」や「自動水剤分注機」のテストが終了し本格導入を開始致しました。

更には、「画像鑑査システム」のテスト導入を開始し、より安全なシステム作りのため検証を行っています。

（※）自動錠剤ピッキング機は、包装薬剤の全自動調剤を行う装置の総称。自動水剤分注機は、水剤の混合、充填を自動的に行う装置。画像鑑査システムは錠剤の画像から医薬品名をチェックする装置。

Q 物販事業の展開について  
どのようにお考えですか。

**物**販事業は、ドラッグストア業界における異業種の医薬品販売参入や、同業間のM&A・提携による出店・価格競争の激化などの影響もあり、今期の業績は改善したものの黒字化には至りませんでした。

コスメティック商品を中心に美容に関する周辺商材を取りそろえ、最新の流行とともにバラエティ性の高い店舗コンセプトで展開する都市型ドラッグストア「アインズ&トルペ」及びコスメ専門店「トルペ」の新規出店により売上規模を拡大し、利益確保のためMDの再構築、経費の見直し、運営手法の改善を進めております。

特にアインズ&トルペではお客様の利便性を高めるために、コスメティックと両輪の関係である医薬品の販売強化を図り、商品構成の見直し及び医薬品の販売コーナーの改装を進めました。今期に行った店舗改装を通じて、医薬品部門を充実させることでコスメティック商品を含む売場全体の活性化及び収益力の向上効果が検証されたため、今後も同様の取り組みを進めてまいります。

Q ジェネリック医薬品について  
お聞かせください。

**平**成22年4月の医療費改定は、平均薬価引き下げ率が5.75%となる一方で、ジェネリック医薬品の使用促進を意識した調剤報酬となりました。

薬価の引き下げは減収要因となったものの、ジェネリック医薬品の使用促進等の取り組みを積極的に行った結果、利益については改定をプラス影響とすることが出来ました。

日本のジェネリック医薬品の普及は、今後の保険制度維持のためにも不可避であると考えております。ジェネリック医薬品の推進は、当社グループにおいても薬局単位での減収となることは避けられませんが、準備を進めてきたジェネリック医薬品推進のための体制構築が功を奏し、同医薬品の専門卸であるグループ会社の株式会社ホールセールスターズを含めて、グループとして収益を確保することが出来ています。

当社グループの調剤薬局は、患者さまの負担軽減、国民医療費の増加抑制の観点から、先発医薬品よりも安価であるジェネリック医薬品の使用を推奨しております。

## Q 今後の業績について お聞かせください。

**来**期においては、東日本大震災の影響により前期出店が出来なかった店舗も含め、グループ全体で調剤薬局43店舗、ドラッグストア7店舗の合計50店舗の出店を予定しています。

これにより、売上高1,430億円（前期比10.5%増）、経常利益95億円（同15.7%増）、当期純利益48億5千万円（同23.8%増）と売上利益ともに過去最高を更新する見込みです。

1株当たり予想当期純利益は304円19銭となり、1株当たり配当金も普通配当において、50円と5期連続の増額を予定しております。

また、前期策定した中期計画「Transcend（※）2000」についても、新たな出店戦略や業務改善を進め、第45期に向けて売上高2,000億円、経常利益135億円、総店舗数686店舗を目指し邁進してまいります。

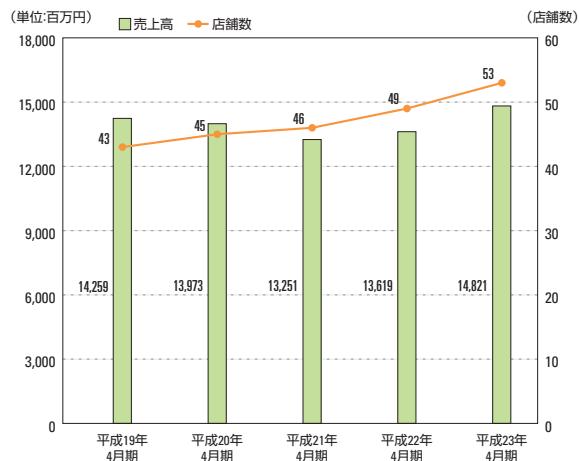
この中期計画達成への取り組みを含めた「2011年4月期決算説明会」の概要を、当社ホームページに掲載しております。是非ご覧ください。（<http://www.ainj.co.jp>）

（※）Transcend：超える、超越する

### 医薬事業売上高・店舗数の推移



### 物販事業売上高・店舗数の推移





調剤薬局事業は、平成22年4月に行われた薬価の引き下げ及び調剤報酬改定のマイナス影響の中で、新規出店やM&Aでの売上拡大、ジェネリック医薬品の使用促進による加算の取得に取り組みました。更には自動化などによる薬局運営の効率化に努めた結果、増収増益を達成いたしました。また、昨年に引き続き、グループ体制での機動性向上や管理コスト削減の観点から、グループ会社の統合を進めております。

当社グループは、従来の出店方法に加えて新しい出店戦略として、医療機関の移転や改築に合わせた、大型駅前薬局とメディカルモールの開発にも取り組んでいます。

当連結会計年度は、6社計33店舗のM&Aを実施し、当社グループにおける調剤薬局数は448店舗となりました。その結果、売上高は1,143億5千4百万円（前期比2.5%増）となり、セグメント利益につきましても102億9百万円（同20.2%増）と増収増益となりました。

## topics

薬学部6年制への変更に際し、薬学部卒業生が減少する「空白の2年間」を経て、平成24年3月、初の薬学6年生が卒業を迎えます。当社グループでは、より優秀な人材を求め、平成22年10月からグループでの採用活動を開始しました。

全国展開ならではの地域医療への貢献や、勤務地選択の柔軟性、リーディングカンパニーとしての研修・教育体制の充実が当社グループの特徴です。グループ各社のノウハウ・人材を集結し、平成24年4月には薬剤師500名の採用を目指しております。

アイン薬局では、豊富な知識と豊かな人間性を持った薬剤師の採用・育成を通じて、患者さまへのサービス向上に努めていきます。



アイン薬局板橋店（東京都板橋区）



アイン薬局伏見店（京都府京都市）

## about the Great East Japan Earthquake

### 東日本大震災について

東日本大震災で亡くなられた方々のご冥福を心からお祈りするとともに、被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。

当社グループも、三陸・北関東地域にて9店舗が営業休止の事態となりましたが、緊急時にこそ医療は必要と考え、震災翌日に災害対策本部を設置し、薬剤師の緊急派遣と医薬品・日用物資の供給を開始しました。

また、約半月で9店舗中5店舗の営業を再開。必要な方に必要な薬をお届けするために、グループ総力を挙げて取り組みました。これからも、被災地の復興支援に尽力し続けてまいります。

### 震災時の対応

3/11	14時46分にM9.0の地震が東北地方から北関東を中心に発生
3/12	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害対策本部を設置</li> <li>・本部より物資供給及び薬剤師派遣を開始</li> <li>・岩手県三陸地域の被災地での医療活動を開始</li> </ul> <p><b>宮古調剤薬局</b> 津波による被害がなかったため、近隣医療機関とともに24時間体制での営業を開始</p> <p><b>アイン薬局大船渡店</b> 津波による被害がなかったため、薬剤師会からの要請を受け近隣薬局と協力営業を開始</p> <p><b>アイン薬局山田店</b> 津波により店舗2階部分まで浸水し全壊状態となったが、社員の自主判断により避難所で医療チームに参加</p>
3/13	社員全員の安否を確認
5/26	被災自治体に合計5,000万円の義援金を届ける
6/2	3店舗営業休止（原発避難：2店舗／津波被害：1店舗）

### 震災報道



山田町避難所

(2011年3月25日 北海道新聞より)



宮古調剤薬局

(2011年3月20日 北海道新聞より)



物販事業では、都市型ドラッグストア「アインズ&トルペ」とコスメティックショップ「トルペ」を全国都心部の商業施設に出店いたしました。

「アインズ&トルペ」では、女性層の支持を得ているバラエティ性の高い店舗コンセプトを維持しつつ、お客様の利便性向上を目的に医薬品の販売ブースの店舗改装を進めております。

今期は、調剤薬局を併設したJR東京駅構内の「東京駅店」や、札幌駅・大通駅から地下直結の「大通ビッセ店」を含む6店舗の出店を行いました。

当連結会計年度は、既存店の人件費や広告宣伝費の見直しによるコストコントロールを図ると同時に株式会社セブンヘルスケアとの共同仕入れを開始するなど、収益改善を目指してまいりましたが、東日本大震災による外国人観光客の減少などの影響を受け、売上高は148億2千1百万円（前期比8.8%増）となり、セグメント損失は2億7百万円（前期は3億9千8百万円の損失）となりました。

## topics

昨年5月にオープンした「アインズ&トルペ大通ビッセ店」は、平成23年3月の地下通路オープンにより、1日5万人が通行する札幌のメインストリートに位置することとなりました。

従来のアインズ&トルペと同じく、医薬業界の目線で選んだ信頼できる商品で構成するヘルス&ビューティーセレクトショップとして、また地域特性を考慮し、カラフルな文房具やアロマポットなどの雑貨も取り扱っております。



アインズ&トルペ大通ビッセ店（北海道札幌市）

# アインズ & トルペ

## Pursuit of the convenience

### より利便性の高い店舗へ

活き活きと美しく生きる。そのしあわせをお届けしたい。

アインズ&トルペは女性のために生まれた、ヘルス&ビューティーのセレクトショップです。

より身近に。より便利に。

ご利用になるお客様のさらなる利便性のために、エキナカ、エキチカ店舗を中心に、調剤薬局併設店舗の展開も開始しています。

# ainz & tulpe

カラダの内と外、両方のキレイを提案するコスメと  
ドラッグのセレクトショップ

東京駅店（東京都千代田区）



かわぐちキャストィ店（埼玉県川口市）



# 連結財務諸表

## ■ 連結貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	前連結会計年度 (平成22年4月30日現在)	当連結会計年度 (平成23年4月30日現在)
<b>(資産の部)</b>		
流 動 資 産	31,242	38,032
現金及び預金	11,188	15,437
受取手形及び売掛金	9,269	10,247
商 品	6,841	8,268
貯 蔵 品	96	107
繰延税金資産	723	928
未 収 入 金	1,404	2,036
そ の 他	1,743	1,133
貸 倒 引 当 金	△ 24	△ 127
固 定 資 産	34,642	38,871
有 形 固 定 資 産	12,510	13,451
建物及び構築物	5,993	6,456
土 地	5,001	5,420
建設仮勘定	315	235
そ の 他	1,200	1,338
無 形 固 定 資 産	13,077	14,827
の れ ん	12,154	13,867
そ の 他	923	960
投資その他の資産	9,054	10,592
投資有価証券	2,802	2,959
繰延税金資産	995	1,233
敷金及び保証金	4,462	4,990
そ の 他	1,013	1,638
貸 倒 引 当 金	△ 220	△ 229
繰 延 資 産	14	35
株 式 交 付 費	14	35
資 産 合 計	65,898	76,940

科 目	前連結会計年度 (平成22年4月30日現在)	当連結会計年度 (平成23年4月30日現在)
<b>(負債の部)</b>		
流 動 負 債	34,140	37,616
買 掛 金	19,666	19,706
短 期 借 入 金	6,549	5,883
未 払 法 人 税 等	1,709	2,421
預 り 金	3,036	6,722
賞 与 引 当 金	875	948
役 員 賞 与 引 当 金	21	9
ポ イ ン ト 引 当 金	297	313
災 害 損 失 引 当 金	－	11
そ の 他	1,984	1,600
固 定 負 債	10,266	9,824
長 期 借 入 金	8,427	7,147
社 債	－	184
退 職 給 付 引 当 金	1,017	1,270
そ の 他	821	1,222
負 債 合 計	44,406	47,441
<b>(純資産の部)</b>		
株 主 資 本	21,676	29,778
資 本 金	6,308	8,682
資 本 剰 余 金	5,498	7,872
利 益 剰 余 金	9,874	13,227
自 己 株 式	△ 4	△ 4
その他の包括利益累計額	△ 231	△ 327
その他有価証券評価差額金	△ 231	△ 327
少 数 株 主 持 分	46	48
純 資 産 合 計	21,492	29,498
負 債 純 資 産 合 計	65,898	76,940

## ■ 連結損益計算書

(単位：百万円)

科目	前連結会計年度 (平成21年5月1日から 平成22年4月30日まで)	当連結会計年度 (平成22年5月1日から 平成23年4月30日まで)
売上高	125,495	129,387
売上原価	108,258	109,297
売上総利益	17,237	20,089
販売費及び一般管理費	10,744	11,981
営業利益	6,492	8,107
営業外収益	348	585
営業外費用	478	483
経常利益	6,362	8,210
特別利益	88	130
特別損失	345	696
税金等調整前当期純利益	6,105	7,644
法人税、住民税及び事業税	3,157	4,038
法人税等調整額	△ 192	△ 312
少数株主損益調整前当期純利益	—	3,918
少数株主利益	9	1
当期純利益	3,131	3,916

## ■ 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科目	前連結会計年度 (平成21年5月1日から 平成22年4月30日まで)	当連結会計年度 (平成22年5月1日から 平成23年4月30日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	6,428	7,627
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 2,700	△ 3,881
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,773	463
現金及び現金同等物の増減額	1,954	4,209
現金及び現金同等物の期首残高	9,234	11,188
現金及び現金同等物の期末残高	11,188	15,397

## ■ 連結株主資本等変動計算書

当連結会計年度（平成22年5月1日から平成23年4月30日まで）

(単位：百万円)

	株主資本					その他の包括利益累計額		少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	その他の包括利益 累計額合計		
平成22年4月30日 残高	6,308	5,498	9,874	△ 4	21,676	△ 231	△ 231	46	21,492
連結会計年度中の変動額									
新株の発行	2,374	2,374			4,749				4,749
剰余金の配当			△ 564		△ 564				△ 564
当期純利益			3,916		3,916				3,916
自己株式の取得				△ 0	△ 0				△ 0
株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額（純額）					—	△ 96	△ 96	1	△ 94
連結会計年度中の変動額合計	2,374	2,374	3,352	△ 0	8,101	△ 96	△ 96	1	8,006
平成23年4月30日 残高	8,682	7,872	13,227	△ 4	29,778	△ 327	△ 327	48	29,498

## ■ 貸借対照表

(単位：百万円)

科目	第41期 (平成22年4月30日現在)	第42期(当期) (平成23年4月30日現在)
<b>(資産の部)</b>		
流動資産	16,990	22,119
固定資産	35,540	37,967
有形固定資産	6,184	6,736
無形固定資産	706	1,136
投資その他の資産	28,650	30,094
繰延資産	14	30
資産合計	52,545	60,117
<b>(負債の部)</b>		
流動負債	27,731	30,734
固定負債	8,959	7,926
負債合計	36,690	38,661
<b>(純資産の部)</b>		
株主資本	16,086	21,782
資本剰余金	6,308	8,682
資本剰余金	5,498	7,872
利益剰余金	4,283	5,231
自己株式	△ 4	△ 4
評価・換算差額等	△ 231	△ 327
その他有価証券評価差額金	△ 231	△ 327
純資産合計	15,854	21,455
負債純資産合計	52,545	60,117

## ■ 損益計算書

(単位：百万円)

科目	第41期 (平成21年5月1日から 平成22年4月30日まで)	第42期(当期) (平成22年5月1日から 平成23年4月30日まで)
売上高	60,362	63,273
売上原価	51,667	53,329
売上総利益	8,694	9,944
販売費及び一般管理費	6,863	7,377
営業利益	1,831	2,567
営業外収益	810	919
営業外費用	468	453
経常利益	2,173	3,033
特別利益	87	249
特別損失	254	483
税引前当期純利益	2,005	2,799
法人税、住民税及び事業税	1,149	1,338
法人税等調整額	△ 109	△ 51
当期純利益	965	1,511

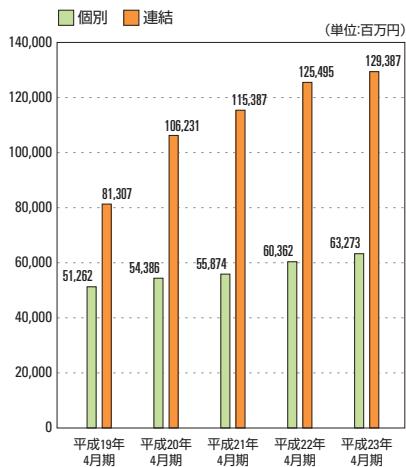
## ■ 株主資本等変動計算書

第42期(当期) (平成22年5月1日から平成23年4月30日まで)

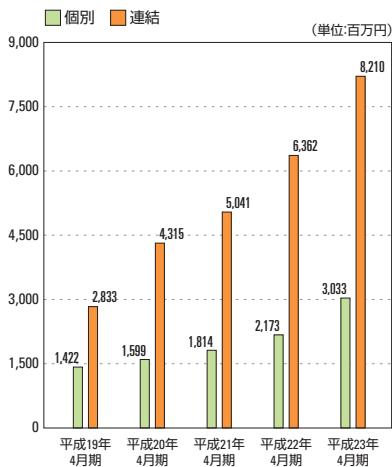
(単位：百万円)

	株主資本							評価・換算差額等		純資産 合計		
	資本金	資本剰余金		利益剰余金			自己 株式	株主資本 合計	その他 有価証券 評価差額金		評価・換算 差額等 合計	
		資本 準備金	その他 資本 剰余金	資本 剰余金 合計	その他 別途積立金	利益剰余金 繰越利益 剰余金	利益 剰余金 合計					
平成22年4月30日 残高	6,308	4,498	1,000	5,498	1,600	2,683	4,283	△ 4	16,086	△ 231	△ 231	15,854
事業年度中の変動額												
新株の発行	2,374	2,374		2,374					4,749			4,749
別途積立金の積立					200	△ 200	-					
剰余金の配当						△ 564	△ 564		△ 564			△ 564
当期純利益						1,511	1,511		1,511			1,511
自己株式の取得								△ 0	△ 0			△ 0
株主資本以外の項目の事業年度中の変動額(純額)										△ 96	△ 96	△ 96
事業年度中の変動額合計	2,374	2,374	-	2,374	200	747	947	△ 0	5,696	△ 96	△ 96	5,600
平成23年4月30日 残高	8,682	6,872	1,000	7,872	1,800	3,431	5,231	△ 4	21,782	△ 327	△ 327	21,455

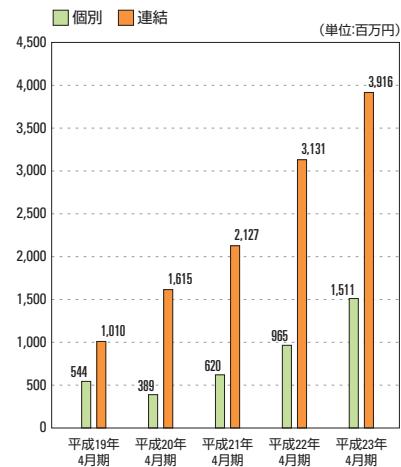
売上高



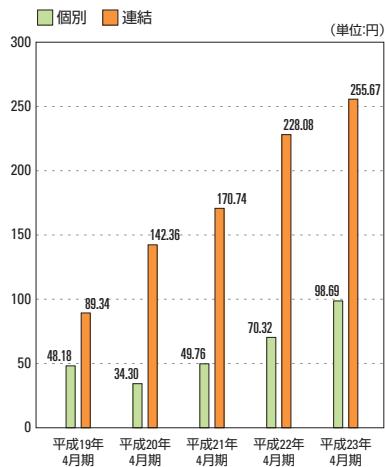
経常利益



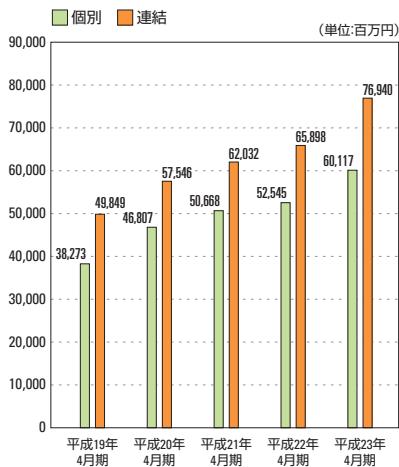
当期純利益



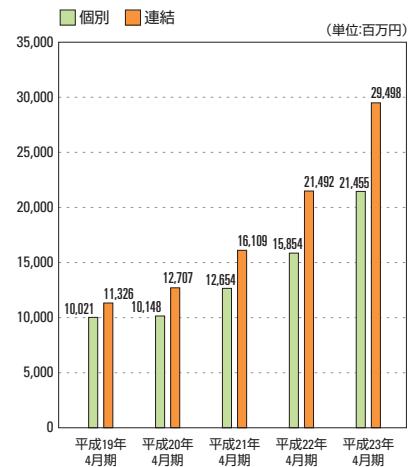
1株当たり当期純利益



総資産



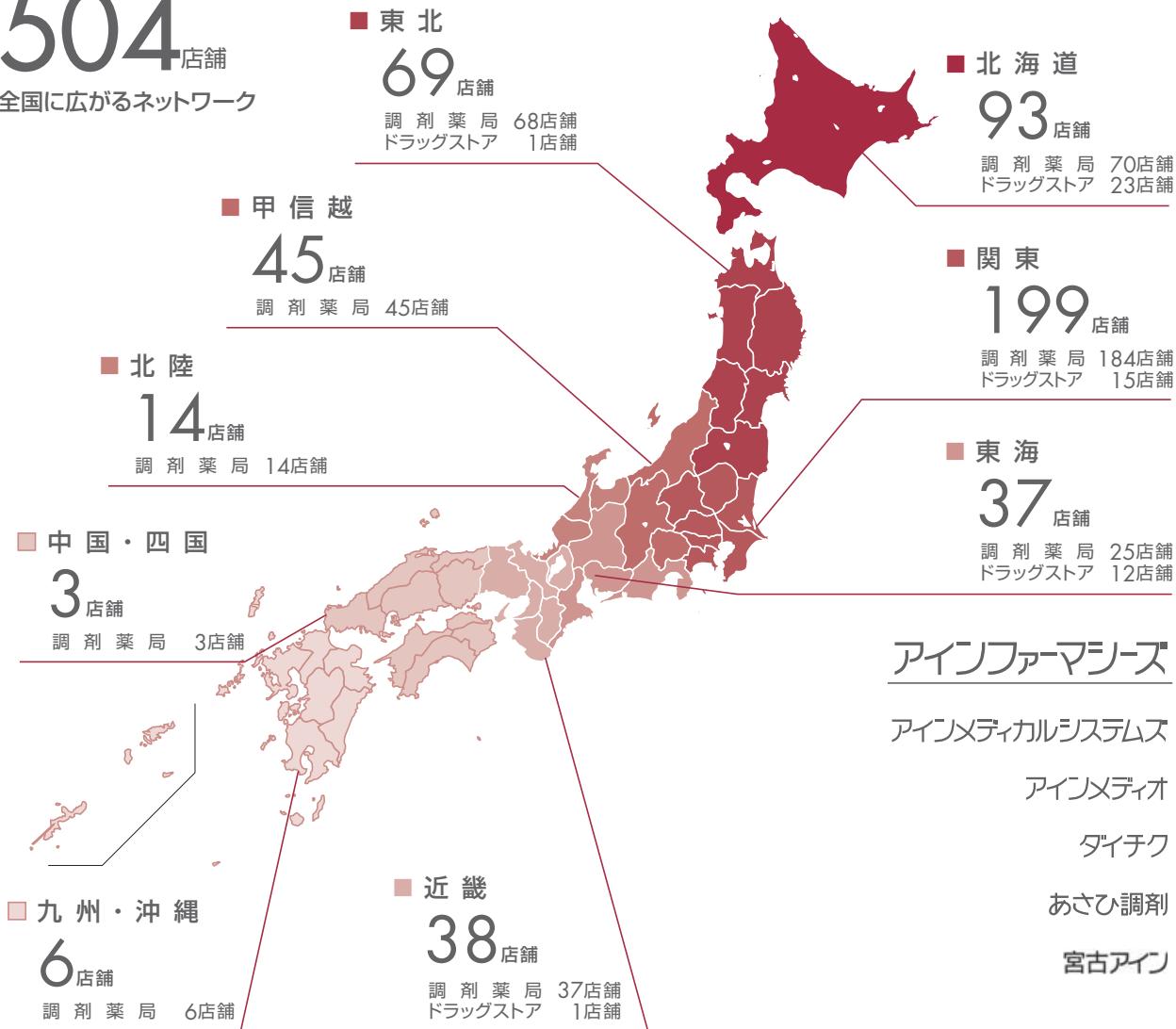
純資産



アイングループ

504店舗

全国に広がるネットワーク



## アインファーマシース

アインメディカルシステムス

アインメディオ

タイチク

あさひ調剤

宮古アイン

商 本 社	号 社	株式会社インファーマシーズ 札幌市東区東苗穂5条1丁目2番1号 TEL (011) 783-0189 (代表)
設 立	立	昭和44年8月
資 本 金	金	86億8,297万円
従 業 員	員	3,104名(連結) 1,404名(単体)
事 業 内 容	業 内 容	・調剤薬局チェーン アイン薬局 今川薬局 ・ドラッグストアチェーン アインズ アインズ&トルペ トルペ

役員構成	代表取締役社長	大谷 喜一
	代表取締役副社長	南 雲 正
	専務取締役	加藤 博美
	専務取締役	川井 淳一
	専務取締役	櫻井 正人
	常務取締役	首藤 正一
	取締役	水島 利英
	取締役	栗林 政博
	取締役	佐藤 譲治
	取締役	水野 勝
	取締役	南 晃
	取締役	小林 強
	取締役	木内 政雄
	常勤監査役	大橋 一郎
	監査役	井須 孝誠
	監査役	石橋 雄哉

(2011年7月29日現在)

## 株式の状況

発行可能株式総数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 44,000,000株  
 発行済株式の総数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15,944,106株  
 (注) 公募及び第三者割当増資により、新株式を1,840,000株発行し、発行済株式の総数は1,840,000株増加しております。

株主数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2,962名  
 大株主(上位10名)

株主名	持株数	持株比率
	千株	%
大谷 喜一	1,654	10.38
丸紅株式会社	1,240	7.78
株式会社セブン&アイ・ホールディングス	1,240	7.78
ステートストリートバンクアンドトラストカンパニー	929	5.83
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	879	5.52
今川 美明	700	4.39
株式会社北海道銀行	546	3.43
日本スタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	475	2.99
今川商事株式会社	443	2.78
オーエム04エスエスピークライアントオムニバス	379	2.38

(注) 持株比率は自己株式(3,102株)を控除して計算しております。

## 株 主 メ モ

事業年度	5月1日から翌年4月30日まで
定時株主総会	毎年7月
基準日	毎年4月30日
株主名簿管理人	その他、必要ある場合は、あらかじめ公告して定めます。 東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
(証券会社に口座を) お持ちの場合)	お取引の証券会社になります。 ※未払配当金の支払い、支払明細発行については下記の「特別口座の場合」の郵便物送付先・電話お問合せ先をご利用ください。
(特別口座の場合)	〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-288-324 (フリーダイヤル)
お取扱店	みずほ信託銀行株式会社 本店及び全国各支店 みずほインベスターズ証券株式会社 本店及び全国各支店 ※電子化前に名義書換を失念してお手元に他人名義の株券がある場合は至急ご連絡ください。
公告方法	電子公告により行います。(http://www.ainj.co.jp/) ただし電子公告によることができない事故、その他やむを得ない事由が生じたときには、日本経済新聞に公告いたします。